

〈目標 16〉 平和と公平をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

自分の住む自治体の「自治基本条例」を調べたことがある人は、どれくらいいるだろう。「まちづくり条例」、「行政基本条例」など、自治体によって名称は様々だが、その多くが、市民と行政の役割と責任、市民参加、協働に関する原則などを定めており、「自治体の憲法」と言われる。2016年現在、総自治体数1,718のうち、352の自治体が策定している。

「消滅可能性」を「持続発展」に変える

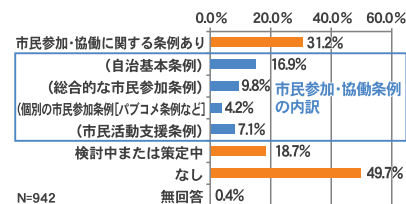
豊島区では、2006年に「豊島区自治の推進に関する基本条例」を制定。条例案の検討にあたっては、区民の有志を募り、「区民会議」を設置。会議の運営も区民主体で実施した。「区民会議は区民自身が自治のあり方を考える場だった。」そう話すのは、当時、区民会議の事務局を担当した矢作豊子氏(現・豊島区広報課長)だ。区民主体の自治に向け、区民と行政のパートナーシップのチャレンジだった。

そんな豊島区に、2014年、衝撃が走る。民間有識者組織「日本創成会議」が、23区で唯一、豊島区を「消滅可能性都市」に指名したのだ。消滅可能性都市とは、2040年時点に20～39歳の女性人口が半減する自治体のことを指す。この報道を受けた区は、直ちに対策本部を立ち上げ、課題と原因を分析。まずは当事者の意見を聞

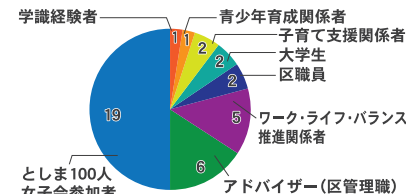
としまF1会議から予算化した11事業

事業名	新規/拡充	予算(千円)
子育てナビゲーターの配置	新規	14,180
健康推進課・地域保健課業務委託(窓口受付)	拡充	27,193
子どもスキップ事業 (新1年生応援保育実施施設の増設)	拡充	501
池袋本町プレーパーク事業	拡充	2,163
子育て支援公園施設整備等モデル事業	新規	6,000
としま100人社長会開催 (ワーク・ライフ・バランス推進事業)	拡充	1,362

市民参加・協働に関する条例の制定状況



としまF1会議の構成員



事業名	新規/拡充	予算(千円)
女性の暮らし支援出張講座	新規	262
女性のための起業支援 (サクラヌbiz(仮)の育成)	拡充	960
ソメイヨシノプロジェクト推進事業	拡充	1,200
リノベーションまちづくり事業	拡充	29,048
広報としま発行	拡充	5,176
合計		88,045

くため、「としまF1会議」の設置を決定し、そのための仕掛けとして「としま100人女子会」を開催。豊島区に関わりのある女性達が意見や想いを出し合った。「としまF1会議」委員の半数以上はこの「としま100人女子会」を母体に出発され、それぞれの意見や想いを実際の事業提案に結び付けていく検討を重ねられた。そして、検討開始からわずか4カ月でまとめあげられた事業提案のうち、区は11事業(8,800万円)を予算化した。これほどスピード感で区民の提案が事業化されることは、他に類を見ない事例だろう。

「イレギュラーな事態だった」と、突発的に直面した危機に触れつつも、「危機感を共有できたからこそ、行政も区民も一緒に走ることができた」と矢作氏は振り返る。実際のプロセスにおいては、いくつも難関があった。しかし、異なる主体がひとつのミッションに向かうとき、そこにパートナーシップが生まれ、区民主体の自治が可能になる。

今後、日本の人口は総体的に減少していく。多くの自治体は、すでにその課題と向き合っている。地域の持続可能性を考えると、豊島区の例に見る、セクターを超えたパートナーシップはもとより、誰もが主体的に参画できる、透明性の高いまちづくりが不可欠である。



としま100人女子会の様子



としまF1会議事業提案発表の様子



- 透明性の高い施策作り
- 住民主体の自治
- 官民学の協働
- ミッション型の協働

東京都豊島区

東京23区の西北部に位置し、副都心池袋を擁する豊島区。その中心の池袋駅乗降客数は1日平均250万人を超え、「住みたい街」の上位にランキングされる人気のエリア。2012年に区制施行80周年を迎えた豊島区は、「国際アート・カルチャー都市」を将来像に掲げ、区内企業や大学等と積極的に連携・協働し文化によるまちづくりを推進している。

Data 2016年1月1日現在

- 面積: 13.01 km²
- 人口: 280,639人
- 0～14歳人口: 24,294人(8.66%)
- 65歳以上人口: 57,162人(20.37%)

【としまF1会議概要】 <http://www.city.toshima.lg.jp/050/kuse/danjo/032983.html>